

令和7年度 宍粟市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 3名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

①地域住民への認知症の正しい理解の啓発

認知症に関する講演会や講座の開催、市の取り組みの周知

認知症サポーター養成講座・ステップアップ講座の開催支援、認知症キャラバン・メイト連絡会の開催
アルツハイマー月間等の啓発活動

②認知症ケアの質の向上

専門職研修の企画、調整

③多職種連絡会の企画、調整

認知症施策検討会

④認知症の人やその家族への支援

認知症の人やその家族に対する相談支援、家族のつどいの開催

オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援、オレンジカフェ連絡会等の開催、チームオレンジ活動支援
認知症初期集中支援事業の推進

高齢者等見守り支援（SOS登録）やSOS協力機関伝達訓練の実施

⑤認知症ケアパスの見直しと普及、リーフレット作製

報告者氏名：取越 かおり・谷 望美・菅谷 美佳

宍粟市 認知症施策全体図

認知症の人と家族もともに安心して暮らせるまちづくり

適時・適切な医療・介護等の提供

相談窓口の普及・啓発
認知症地域支援推進員の配置
認知症初期集中支援チーム
認知症予防健診

人材育成

認知症講演会
介護講座

権利擁護

関係機関との連携

予防

脳トレ運動教室
通いの場認知症予防ミニ講座



普及・啓発活動

認知症講座・講演会
認知症に関する取り組みの周知
アルツハイマー月間等での周知

認知症施策の推進

認知症施策検討会

認知症サポーターの養成・活用

認知症サポーター養成講座
認知症サポーターステップアップ講座
認知症キャラバン・メイト連絡会
チームオレンジ活動支援



家族支援・本人支援

オレンジカフェの普及、啓発
オレンジカフェ連絡会
家族のつどい

ひとり外出見守り・SOSネットワーク

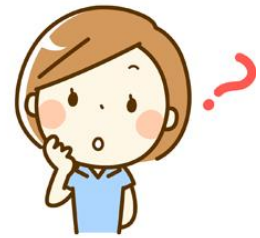
GPS機利用支援
見守りSOSネット・SOS協力機関伝達訓練

標題 宍粟市チームオレンジへの取り組みと活動支援

1 チームオレンジの立ち上げ

チームオレンジの立ち上げはどうしたらいいだろう？

新たなものでなく既存のものを活かして



チームオレンジ
推進研修



宍粟市の今ある資源って・・・なんだろう？

オレンジカフェ「ホット・カレン」

- 配食サービスを通して高齢者の見守り活動をされているボランティアグループ
- H29年2月～オレンジカフェをオープン
- 地域の企業や施設が活動に賛同し協力されている



標題 宍粟市チームオレンジへの取り組みと活動支援

ホット・カレンがボランティア活動時に困っていたことに対して、地元の企業等が地域貢献として協力

- ・参加人数増加のための広い会場 : 地元企業の会議室を無料で利用
- ・ひとりで来られない人のための送迎 : 地元の特別養護老人ホームのデイサービス送迎車が空き時間で送迎

※社会福祉協議会 生活支援コーディネーターが困りごとに対し企業等に相談

利用していた企業の隣にあった「にこにこ마트」が波賀市民協働センターに移転
カフェ帰りに買い物をしていた人から「買い物がしたい」と希望あり、波賀市民協働センターの会議室に場所変更

2 チームオレンジの課題

認知症の本人の社会参加の場としたいが、本人の参加につながらない



3 チームオレンジの活動支援

Aさん 女性 夫と二人暮らし 認知症
介護認定なし

2年前家族から相談があり、カフェや体操等の社会資源を紹介していたがつながらなかった。

病気になる前はボランティアに積極的に参加していた。今は人と交わることを嫌う。夫も嫌なことはさせたくないと思っている。

標題 宍粟市チームオレンジへの取り組みと活動支援



「カフェに来てみませんか」と勧めるが本人が拒否。

人がたくさんいるところは嫌だ

チームオレンジメンバーと認知症地域支援推進員で相談
カフェに参加ではなく配食のお弁当作りを手伝ってもらうのはどうか。
チームオレンジメンバーで近くに住む人がおられ、繰り返し声をかけてみる。



Aさんの顔見知りの方がいるチームオレンジだった

Aさんはもともと別の配食ボランティアでお弁当作りをしていた

しばらくして
週に1回お弁当作りに参加されるようになり表情が明るくなった。
夫も一緒に来ており、表情が穏やかになっているとメンバーから報告がある。

• 最後に・・・

チームオレンジへの当事者の参加が課題であったが、今回は偶然相談を受けたケースとチームオレンジの場所が近く、顔見知りの関係でもあったのでつながることができた。地域支援推進員からの勧めではなく、地域の人からの誘いだったのもよかったのかもしれない。チームメンバーとは「あせらずに誘っていこう」と話し、そのあとはメンバーに任せた。推進員とチームメンバーの関係も大切であると感じる。

新しい環境の初めの1歩は誰でも怖いもの。けれど仲間がいたら、背中を押してくれる人や家族がいたら、ちょっと勇気をもって歩き始めてみませんか。
私たちはその場所をこれからも作っていこうと思います。

